

細井肇 徳島 評論家。明治十九年一月東京生れ（二六六一）。筆名吼嘩、
細井生、日・日子、日・日生。『長崎新報』記者を経て明治四十五年渡
鮮、四十四年歸國。菊池謙讓（號長風）等の朝鮮研究会に加はり、大
正二年東京朝日新聞社入社、政治部記者と七年の退社、翌年再渡鮮と
す。

著譯書 『政争と輿論』（大正二年十一月二十三日益進會）、『關族罪
惡史』（大正八年五月五日自刊、大鏡齋發賣）、『莊陵誌・謝氏南征
記』（島中雄ニ合譯、大正十年四月一日京城・自由研究社『通俗朝鮮
文庫』）、『朝鮮士禍の檢討・九重夢』（長野虎太郎共編・島中雄ニ
譯、大正十年五月一日自由研究社『通俗朝鮮文庫』）、『大東遊記』
大正十一年四月二十日自由研究社『通俗朝鮮文庫』）、『東經正義（下）
・朝鮮問題講演集』（合著、大正十一年十一月一日自由研究社『鮮滿
叢書』）、『書水鏡（下論）・五百年奇譚・雲莊傳』（編、清水鏡吉合
譯、大正十一年八月一日自由研究社『鮮滿叢書』）、『日本の決意』
（昭和十七年十一月二十日亞洲青年聯盟本部、時事出版社發賣）等。

